

# 立間川水系河川整備計画 各地区説明会の開催結果（概要）

## ○喜佐方地区

日時：令和2年10月13日（火） 17時30分～18時30分

場所：喜佐方公民館

出席者：16名（自治会長，行政推進協議会，水資源協議会，市議会議員等）

## ○吉田地区

日時：令和2年10月14日（水） 18時30分～19時20分

場所：吉田公民館

出席者：22名（自治会長，市議会議員等）

## ○立間地区

日時：令和2年10月16日 18時30分～19時15分

場所：立間公民館

出席者：22名（区長，自治会長，市議会議員等）

## 1. 開会挨拶

（挨拶：南予地方局河川港湾課長）

### 概要

愛媛県では、平成30年7月豪雨による甚大な浸水被害を受け、立間川水系の治水対策について、国や宇和島市と協議を重ねてきました。

今回、今後20～30年間の立間川水系の河川整備の方向性について説明させて頂き、皆様から頂いた意見も参考にして学識経験者への意見聴取を行い、今年度中に国の補助事業の採択条件となる「立間川水系河川整備計画」を策定して、本格的に事業に着手したいと考えています。

近年、気候変動等の影響により、全国各地で水害が頻発し、被害も激甚化しております。立間川水系において、水害リスク増大に備えるには、県の河川整備のみでなく、市役所などの関係機関に加え、地域住民の皆様など、流域に関わるあらゆる関係者が協力し、ハード対策、およびソフト対策を進め、流域全体で被害の軽減に取り組んでいかなければならないと考えています。

愛媛県としては、1日も早く立間川水系の治水安全度を向上させ、地域住民の皆様が安心して暮らせる街づくりを進めて参りたいと考えております。

今後とも、皆様のお力添えをお願いするとともに、防災対策を加速させていきたいので、ご協力のほど宜しくお願いします。

## 2. 立間川水系河川整備計画案の説明

※パワーポイント及び配布資料により計画案を説明。

（説明：南予地方局河川港湾課災害グループ）

## 概要

概ね 20～30 年間で人口・資産が集中する中心市街地の浸水被害の軽減を図る河川整備計画案であり、河床掘削や砂防事業等と連携して事業を実施し、流域全体の治水安全度の向上を図ることを考えている。

まずは、最初の概ね 10 年間で、国安川の石神橋（複数橋脚による流下阻害）と営繕前橋（桁下高不足による流下阻害）を統廃合して、ボトルネック箇所の解消を図るとともに、国安川と河内川で特殊堤（パラペット）を整備し、河道断面を拡幅する。あわせて、パラペット整備による堤防高の増高に伴い水門の改築を実施する。その後、次の概ね 10～20 年間で、立間川のボトルネック箇所の解消及び河道断面の拡幅を進める予定としている。

また、治水安全度の向上を図るため、治水対策として即効性のある河床掘削を立間川流域の県管理河川で継続して実施するとともに、立間地区で計画・実施中の砂防事業を着実に進め、河道への土砂流出を抑制する。

なお、平成 30 年 7 月豪雨と同じ雨の降り方の場合の事業効果（浸水被害の軽減効果）を、シミュレーションで確認しているが、内水氾濫は考慮していないことから、河川整備に並行して内水氾濫対策（市事業）を検討する必要がある。また、平成 30 年 7 月豪雨を超えるような雨の降り方になる場合は、整備後も洪水による浸水が発生するシミュレーション結果になるので、河川整備に安心することなく、豪雨時には避難を心がけていただきたい。

## 3. 質疑

<主な質疑>

Q 今回の事業は、中心市街地を水没から守る事業であり、喜佐方地区と立間地区へのメリットは少ないのではないかと？

A (南予地方局河川港湾課)

河川整備は、国の補助を受けて事業を実施することになるが、人口・資産が集中し、大きな費用対効果が見込まれる中心市街地から着手することになっています。また、河川整備は、下流から行うことが原則になっていることをご理解いただきたい。なお、補助事業とは関係なく、地元要望のある小規模な局部改良や河床掘削については、優先順位をつけたうえで、県単独事業での実施を予算要求していきたい。

Q 防潮水門の改築・移設にあたっては、中学校より下流で検討していただきたい。また、平成 30 年 7 月豪雨の浸水は、雨が降り過ぎたことが一番の原因である。土地が低いから内水氾濫したのであって、水門操作者や水門を利用する農家がストレスを感じたりすることがないように配慮して住民説明していただきたい。

A (南予地方局河川港湾課)

水門の改築位置や改築方法の詳細については、市役所及び地元の意見も聞き、今後検討していきます。また、説明会では、平成 30 年 7 月豪雨の浸水要因をしっかりと説明するよう心がけたい。

Q 河道に土砂がかなり堆積している。撤去すれば、より効果が出るのではないかと？

A (南予地方局河川港湾課)

県下全域で河床掘削しているが、近年は降水量も増えて土砂の流出量が増えており、一度に全ての土砂を撤去することは困難な状況です。なお、シミュレーションでは、平成30年7月豪雨レベルになると、土砂堆積の有無にかかわらず、現況河川では浸水が発生する結果になります。

Q 立間川で河床掘削を実施しているが、時間50mmを超えるような雨が降れば、上流から土砂が流れてきて、元の状態に戻る。もう少し掘った方が良いのではないか？

A (南予地方局河川港湾課)

今回の補助事業では、当面、立間川の改修はありませんが、上流の立間地区で多数の砂防堰堤を計画しており、河川への土砂流出が減ることを想定しております。また、県下全域で河床掘削の要望が非常に多く、限られた予算の中では、全ての箇所を要望どおり掘削できないことはご理解願います。

Q 橋梁の統廃合について、工事が始まれば、煙硝蔵と太鼓場の住民は一つの橋を利用することになる。現道は車の離合ができないことに加えて、小中学生の通学路になっているため、工事が始まるまでに、市道の拡張を行っていただきたい。また、営繕前橋についても、桁下高が低い国道側に可動式の門扉を付けるなど検討して、車道橋として残してもらいたい。

A (南予地方局河川港湾課)

橋梁の統廃合については、計画案ができ次第、市役所及び地元と相談します。また、工事の施工あたっては、市役所と相談のうえ、通行に支障がないよう配慮します。

A (宇和島市建設課)

橋梁の架け替えの工事の段取りを見ながら、県とも協議し、できることを行いたい。

Q ステップ1(最初の10年)で市街地の床上浸水が解消、ステップ2(次の10~20年)で市街地の床下浸水が解消されるとあるが、これは大丈夫か？

A (南予地方局河川港湾課)

シミュレーションは、平成30年7月豪雨と同じ雨が降った場合で、かつ内水氾濫は考慮しない場合の結果を示しています。内水氾濫対策も進めば、平成30年7月豪雨と同じ雨であれば、被害は軽減できると考えます。あくまで、30年7月豪雨を再現したモデルでの検討であり、全国各地で頻発する100mmを超えるような雨が降れば、ソフト対策の「避難」が重要になるのでご理解願います。

Q 豪雨が発生する間隔は狭まっており、河川整備の完了まで待てない。応急処置として何か良い方法は無いのか？

A (南予地方局河川港湾課)

即効性のある効果的な対策として、河床掘削を要望します。

A (宇和島市都市整備課)

来年度から、御殿内地区と橋北地区を中心に、排水路等の浸水対策の検討業務を行

う予定です。市としても、今年度末に策定される河川整備計画を考慮した内水対策を行い、必要な箇所の水路整備や、場合によってはポンプ施設の増強を進めていきたい。

#### 4. 今後の予定

河川整備計画(案)の作成に先立ち、河川法第 16 条の 2 に基づき流域懇談会及び愛媛県河川整備計画専門委員会を開催する。

##### 流域懇談会

日時：令和 2 年 11 月 27 日（金）18 時 30 分～

場所：吉田公民館

出席者：住民代表者、事業関係者、農業関係者、消防関係者、学校関係者等に案内予定

##### 愛媛県河川整備計画専門委員会

日時：未定

場所：未定

出席者：愛媛県河川整備計画専門委員

#### 5. 閉会挨拶（南予地方局河川港湾課長）